

2022年11月24日
公益財団法人イオン環境財団

11月26日（土）第4回「九十九里浜植樹」を実施

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田元也 イオン株式会社 取締役 代表執行役会長 以下当財団）は、11月26日（土）に第4回「九十九里浜植樹」を実施します。

千葉県九十九里浜地区の海岸にある県有保安林は、松くい虫被害や湿地化により疎林化が進みさらに東日本大震災では津波被害を受けました。当財団は、台風や津波などの災害および病虫害にも強い海岸防災林再生を目的に、2019年、千葉県と「法人の森事業協定」を締結し、2019年から2021年までに、970名のボランティアの皆さまと15,000本の植樹を実施してきました。

今回は、第4回目として、クロマツ、マサキ、トベラ等の6種類の苗木、合計2,000本を250名のボランティアの皆さまとともに植樹いたします。今後は補植や下草刈りを含むメンテナンスを、地域の子どもたちと共に行っていく予定です。

当財団は、いのちあふれる美しい地球を次代に引き継ぐため、今後も植樹活動をはじめとする環境活動に積極的に取り組んで参ります。

記

日時	2022年11月26日（土） 10:00～11:30		
場所	千葉県山武市 蓮沼海浜公園		
本数	2,000本		
参加者	250名		
樹種	クロマツ・マサキ・トベラ・アキグミ・ハマヒサカキ・ウバメガシ		
主催	公益財団法人イオン環境財団		
後援	千葉県・山武市		
協力	イオンリテール株式会社 他		
出席者 (予定)	千葉県 山武市 イオンリテール株式会社 公益財団法人イオン環境財団	農林水産部長 副市長 東千葉事業部長 専務理事	舘野 昭彦 様 上大川 順 様 後藤 千尋 山本 百合子

以上

【公益財団法人イオン環境財団】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（イオン株式会社名誉会長相談役）により、日本で初めて地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として、1990年に設立されました。以来、多様なステークホルダーの皆さまとともに「植樹」「環境活動助成」「環境教育」「パートナーシップ」の4つの事業を中心に活動に取り組んでいます。現在は、持続可能な地域の実現を目的に、新たな里山づくりにも取り組んでいます。

【植樹活動】

国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的に、アジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施してまいりました。

1991年からのイオン全体の植樹の累計本数は、1,241万本（2022年2月末時点）をこえています。

本年、当財団は、北海道南富良野町、宮城県石巻市、石川県金沢市、千葉県習志野市・君津市、滋賀県甲賀市、宮崎県綾町で植樹を行いました。また、海外では、香港、インドネシア、ジャカルタで植樹を実施しています。

【植樹30万プロジェクト】

財団設立30周年を記念し、3年間で30万本を植樹するプロジェクトです。自治体や学校などと協力して新たな「さくらの名所づくり」をすすめるほか、地域緑化の一助となることを願って、市民の皆さまに、さくらを中心に各地域に根ざした「苗木配布」をしています。

【千葉県における森づくり】

2013年～2015年 浦安市植樹

東日本大震災時の液状化で噴出した土砂の処理が深刻な課題となっていたことを受け、この土砂を土壌の盛土として活用する植樹活動を実施しました。2013年から2015年の3年間の活動を通じ2,100名のボランティアの皆さまと合計18,000本を植えました。

2016年～2018年 千葉市植樹

2016年に、千葉市富田都市農業交流センターで、第1回「千葉市植樹」を実施しました。地域ボランティアの皆さまやイオンチアーズクラブの子どもたちを含め、1,200名のボランティアの皆さまとクヌギ、コナラ、ヤマザクラなどの広葉樹8,000本を植えました。第2回は2017年に、第3回は2018年に泉自然公園（千葉市若葉区）で、野鳥の森の再生を目指し、植樹を実施しました。2年間で1,600名のボランティアの皆さまと合計17,000本を植えました。



浦安市（2015年）



千葉市 富田都市農業交流センター（2016年）



千葉市 泉自然公園（2018年）



九十九里浜（2019年）